

親しく正しく和む

当山先々代三吉日照上人の提唱による  
当山スローガンです  
揮毫=大本山本興寺御開士大平日晋上人

# 寺楽寿

No.43

令和3年1月1日発行

本覺山 妙壽寺 (法華宗(本門流))

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1

電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427

ホームページ <http://myojuji.or.jp>



季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗(本門流)

本覺山妙壽寺が発行する寺報です。

檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに

広くお読みいただければ幸いです。

## リレーコラム No.3

連載「無縁社会と寺縁」は前号をもちまして終了しました。今号より当山弟子と職員による「リレーコラム」をお送りします。

### 一周忌を迎えて

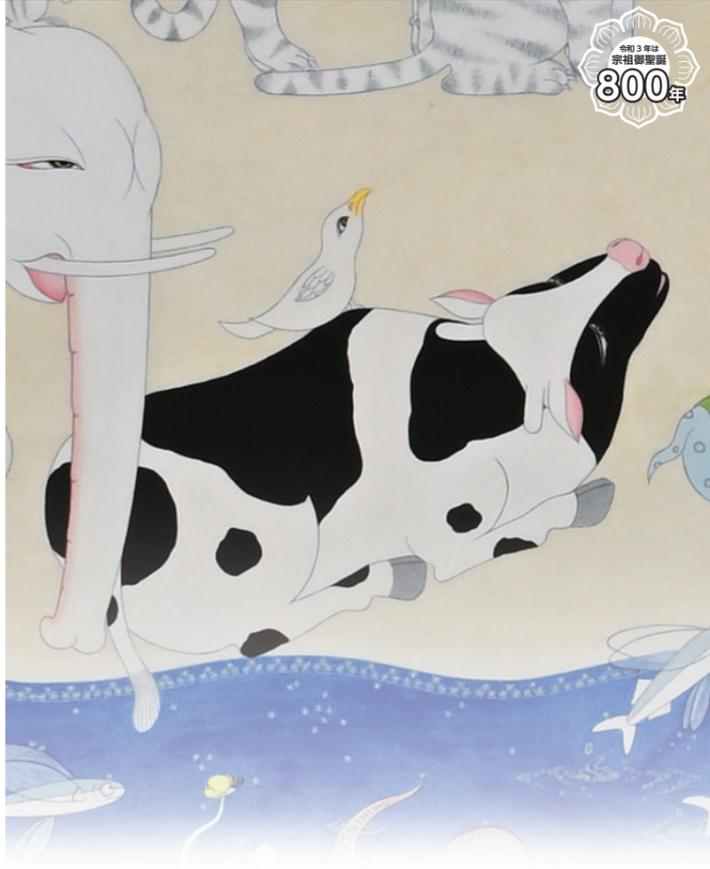
あなたが旅立ってもう一年が過ぎました。私にはあつという間にしか感じられませんが、あなたはどうか生きていますか？

仏さまの住む世界の居心地はどうですか？寒いのが苦手なあなたは寒い朝のご修行に苦勞しているのではないですか？一年経って夢にも現れないのは、余程そちらの世界で楽しい出来ごとがあるのでしょうか。

私の事は心配しなくても大丈夫です。周りの方の優しさに包まれて毎日過ごしています。見えていますよ？なんと私、毎日ご飯作っています。信じられますか？あなたが居た時、料理はあなたにお任せでした。当たり前のように毎日出てくる料理を「美味しい」とか「ありがたい」とか私言いませんでした。当り前のようによく出てくる料理を「美味しい」とか「ありがたい」とか私言いませんでした。冷凍庫の底に見つけました。二人で食べる予定だったのに私ひとりで食べました。美味しかったですよ。近頃は料理つくりを楽しんでいます。でもあなたを身近に感じていますよ。毎日お水を替えろウソクを灯し、お線香を手向ける、ご成仏を祈る、それだけの事ですが、生きてる者から仏さまへ出来る事、毎日同じことを繰り返す、心の中に住んでいるあなたに語りかける、掛け替えのない時間はこれからも日常生活として大事にしていきます。

仏さまになって一年、まだまだあなたは修行の道が続きますね。私もあなたに会いに何時行ってもいいのですが、もう少しこちらで私が出来た事をしてからいこうと思います。あなたに笑われないように一生懸命、毎日を過ごしますね。(当住徒弟 園田顕敦)

【報告】12月20日(日)園田みあき夫人(清華院妙和日恵大姉)第一周忌法要が、当山本堂において筆者施主にて肅やかに奉修されました。



令和3年度  
祭報掲載  
800年

新しい歳を壽ぎ御多幸をお祈り致します。  
疫病の早期収束を祈願致します。

令和三年元旦

「涅槃園」より 中村美希・画

## ひと・まち探訪 烏山(東京・世田谷)

### 寺町、イチョウ輝く「小京都」

「寺町」と呼ばれるこの地域は、北烏山2～6丁目にかけて、南北貫く寺町通りを中心に計26の寺院が整然と立ち並ぶ。美しさと静寂が調和した街並みは「小京都」とも称される。

成り立ちは、1923年(大正12)の関東大震災に遡る。大震災では東京の下町を中心に多数の寺院が被災。復興に伴う区画整理などにより、焼け出された寺院は周辺地域に移転して寺町を形成した。自然豊かな烏山には浅草、築地、麻布などの寺院が相次いで移ってきた。

寺町といっても宗派は様々だ。世田谷区のホームページに掲載されている「烏山寺町ぶらり散策マップ\*」を参考に各寺院を訪ねると、歴史だけでなく、それぞれ個性があることに気づく。見どころは盛りだくさんだが、季節柄、最も印象に残ったのは妙壽寺の門前で黄色に染まった巨大なイチョウの木だった。住職の三吉廣明さんは「この地に開墾した世代が将来のことを考えて努力を重ねてきたからこそ、緑あふれる寺町ができた。しっかりと残していきたい」と話す。



(当山撮影)

観光地ではない。京都のようなスケールもないが「また訪れたい」と思わせる魅力が詰まっている。そんな懐の深さを感じる街だった。

(日本経済新聞令和2年11月28日版一部抜粋)

「烏山寺町」(無料) 書籍をご希望の方は、ご連絡ください。配布いたします。

## 寺日記

てらにっき

### 法要のご案内 (別紙参照)

新型コロナウイルス感染の拡大防止策を寺内に施した上、奉修いたします。

#### 節分会追善式(豆まき)

2月2日(火)  
(明治30年以來123年ぶりに2日となります)

#### 春季彼岸会中日法要

3月20日(祝・土)

### 新規墓所3ヵ所募集

永代使用墓所を新規募集します。

- 3尺×4尺=6基
- 3尺×3尺=6基
- 2尺×2尺=8基

詳細は春彼岸案内にお知らせします。

### 宗務院DIARY

9/4, 10/15, 11/20, 12/2, 12/23 内局会議

9/14 僧階詮衡会 於京都・本能寺

9/28~30 千葉教学講習会 於上総一宮・松涛軒

10/15 宗門史編纂委員会・完成報告法要⑥

10/22 門連京都理事会 於岩倉・妙満寺⑦

11/16 教学研究所主任会(Web)

### 正隆会

【SHORYU-kai】 午後2時開催

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例では、毎回1時半より正隆前法要を奉修しております。

- 1月9日 初題目・勉強会 「日蓮紀行」 拝読 11
- 2月2日 節分会追善式(豆まき)
- 3月13日 勉強会「日蓮紀行」 拝読 12
- 4月10日 勉強会「日蓮紀行」 拝読 13
- 5月8日 勉強会「日蓮紀行」 拝読 14
- 6月12日 勉強会「日蓮紀行」 拝読 15

正隆会「春のウォーク」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となります。



- 9月1日 秋山智英氏(元林野庁長官) 逝去 (瑞林院智覚日英居士行年94歳) 同5、6日当山ご宝前において通夜、葬儀奉修。
- 9月1日 古宅義徳氏ご寄進 古母堂主刀子自遺品のお茶道具等をご寄進いただきました。
- 9月22日 彼岸会中日合同法要 200余名参拝
- 10月10日 お衣替え(日蓮聖人御着衣の本衣五条お衣替・正隆念)
- 10月17日 東京ブレイズクラブ お祝い会
- 11月2日 「西の市」の酉開催(二の酉11月14日、三の酉11月26日開催) 於浅草長國寺(当山組寺)
- 11月3日 十一時より当山歴代人法要①、午後二時より御会式法要・鬼子母神遷座法要・矢吹泰英上人百ヶ日法要 約150名参拝
- 11月7日 第10回竹灯籠能&落語独演会 落語独演会は、春風亭一之輔師匠による演目「普段の袴」佐々木政談。竹灯籠能は浅見慈一師による「石橋」を演じました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止策として観客数を制限し、100名余の参加でした。②③
- 11月8日 千葉珠恵(当住上人妹) 七回忌法要(慈隆院妙珠日恵大姉) ④
- 11月13日 村上恭子夫人ご寄進 ご母堂黒田輝子刀自遺品の茶道具等をご寄進いただきました。
- 11月14日 大阪・妙道寺(住職高橋顕昭上人) 高橋妙子夫人(事徳院恵龍日淳大姉 行年82歳) 逝去。同16日、当住

### 当山境内で「木の实拾い」

日頃、当山では青少年育成のため、近隣の小・中学校を対象に当山見学等を実施しております。10月16日、世田谷区立烏山北小学校1年生の課外授業に松ぼっくりとどんぐり拾いが行われ、西澤当山職員が案内いたしました。

### 矢吹上人御遷化

前号でお知らせしました福島・立正院矢吹泰英上人(照隆院日意上人)の本葬は、8月29日奉修。彼岸会中日合同法要において百ヶ日忌供養を併修いたしました。当山にお寄せいただきましたご厚情に深謝申し上げます。

### 鶯沼・晴明庵

11月23日 御会式法要。10余名ご修行 桑港・日蓮教会

当分の間、諸行事および文化教室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべて中止となります。

猿江・猿江別院  
10月2日・12月4日 写経会開催

- 11月24日 上人、石塚泰道師は妙道寺に弔問
- 11月29日 納骨堂見学会(都内5カ寺)
- 11月29日 丸山コト夫人五十回忌法要(徳光院浄貞妙琴大姉) 同刀自は彫刻家 吉田芳明・白嶺両先生の実妹
- 12月3日 ユニバーサルデザインのベンチ、当山山門前に設置⑤
- 12月3日 烏山駅前通商店街振興組合・田中省一専務理事(当山檀家世話人の仲介による)
- 12月8日 東京ブレイズクラブ成道会 於麻布普福寺
- 12月12日 正隆会 年末唱題会
- 12月24日 お焚き上げ法要

### 供養と祈願

明年3月11日、10周年を迎える東日本大震災の後、幾度かの被災地巡拝を行う中、寺院の役割は供養と祈願に尽きることを改めて思い至りました。この度の新型コロナウイルス感染において、ご不安を感じる皆さまに対し、どのような形でも、そのご不安に対するご祈願を承ります。当山まで、ご相談お申し出ください。

### 「お布施とは」

お布施には、3つの布施があり三施といわれます。一、法施とは、お経を読み、教を弘めること。二、身施とは、身で施す。寺院・僧侶の役に立つこと。三、財施とは、金銭や衣服食料などの財を施すこと。「お心」前号以来「寄進賜った皆様には心よりお礼申し上げます。

### 「妙壽寺客殿保存会」

「妙壽寺客殿」は、平成20年に世田谷区指定有形文化財に指定されました。区とともに次代に継承していくためには、客殿を使い続け、適切な維持管理が必要です。一口10,000円、ご寄付は何口でもお受け付けいたします。

### 「山南側樹木伐採・清掃」

夏の終わりに、造園業の精内デザイン工業代表前内利章氏とその職員により、精力的に樹木を伐採いただきました。また、併せて西側に松の木を囲み塀を修復しました。ご賛同いただきましたら、ご志納(金額は自由です)をお願いいたします。

### 「僧侶衣帯」

当山弟子職員の夏冬の衣帯(所持の仏具など)ご寄進のお志をいただければ幸いです。

### 身施の人・坂本幸子夫人

当山檀家で東京目会所属の坂本夫人は、毎週のように当山境内の草取り清掃をご奉仕いただいております。いつも微笑みをおやさす、物静かなふるまいの方です。

### 「ご寄進のお願い」

「妙壽寺客殿」は、平成20年に世田谷区指定有形文化財に指定されました。区とともに次代に継承していくためには、客殿を使い続け、適切な維持管理が必要です。一口10,000円、ご寄付は何口でもお受け付けいたします。

11月3日御会式お参りにて



# 川島正次郎先生の在りし日の想い出 〈下〉

川島 一雄氏 (公益社団法人中村積善会評議員)

聞き手 三吉廣明上人 6月2日(火) 於・妙壽寺(東祥苑・持仏の間)

## 突然のお別れ

**住職** 先生がご他界されるそのときを一雄様はよくご存じでいらつしやるわけですね。

**川島** そうですね。私は、自分の父でありながら「先生」と呼んでいます。古い政治家の家族というのは、代議士さんをみんな「先生」と呼ぶんですね。奥さんは「奥様」と。実は私にはもう一人母がいて、その3人で長いこと生活していました。私は2歳ぐらいのときに引き取られて、ずっと一緒にだったというのでございまして…。

**住職** 山王のお屋敷でずっと一緒だったのですか。

**川島** そうです。その前は、私も聞いた話でよくわからないのですが、品川で生まれました。昭和19年、戦争も大分激しいときだったので、母の実家の群馬県に移っていたのですが、戦争が終わり、先生から、田舎に置いておいては駄目だということで、大森の家へ引き取られ、それからずっと一緒に生活しています。ですから、どこかへちよつと出かける時も、旅行でもいつも連れられて行かれました。常に先生と奥様と私とで外出して、母は留守番です。子供時代はそういう状況でずっと育ってきたものですから、あまり代議士の誰々という認識がなかったですね。

**住職** 一年中一緒にお風呂も入られたそうですね。

**川島** そうです。夏の間は別荘がわりに箱根宮ノ下の旅館「奈良屋」で涼しくて過ごしやすくて、私の記憶だと5才のころからお邪魔していたのではないかと思います。

**住職** それで、先生が亡くなられたのが昭和45年11月9日ですが、直前にご旅行にも行かれていたとか。

**川島** ええ。そのひと月前の10月7、8、9日と北海道へ。北海道はお気に入り、北海道開発庁長官も何度か務めておられ、お付き合ひの関係では、北海道炭礦汽船の萩原会長から、しばらくぶりだからご夫妻で秋の北海道はどうですかと誘ってくださり、ありがとうございます。政治家の家には必ず新聞記者がついているんですよ、不思議と。

**住職** 番記者ですね。

**川島** そういふことですね。萩原さんが氣を利かせて、今回は先生が気楽に旅行してもらえように、新聞記者の人はやめましょうとあえて言ってくれたようです。私どもの先生もそれを快く受けて、先生と

奥様、権名悦三郎先生ご夫妻、赤城宗徳先生ご夫妻、篠田弘作先生ご夫妻、浜野清吾先生、山村新治郎先生が伴って行きました。

**住職** 政治家の皆様ですね。

**川島** そうですね。川島派の交友クラブの皆さんも一緒です。また、日本画家東山魁夷先生ご夫妻とも一緒し、東山先生ご夫妻は、函館へと足を伸ばされ、その後東山先生は紅葉の北海道を描いたと伺っております。

東京に戻って、11月1日に川島連合会が開催されましたが、春と秋は、持病の喘息で時々体調が崩れるときがあるため、急な用事がない限りは自宅を過ごす。それで喘息を治めるために毎年ハワイに出かけていまして、先生ご夫妻と私の3人だけで11月9日に出発を予定していました。その当日の朝、寝室に呼ばれまして、身体はどうですかというように話を聞いて、本人は行く気になっていまして、大丈夫だよということでした。

**住職** そのときは三井グループのお仕事をされていたのですか。

**川島** そうです。北炭(北海道炭礦汽船)の萩原さんの秘書に預けられていました。

**住職** ご自宅に帰ったときは、先生はもう…。

**川島** はい。自宅から電話がありました。先生が亡くなったと。

**住職** それはびっくりされましたか。

**川島** やはり喘息の絡みだと思えます。昔から喉にたんがよくなったままですね。その日は、ご自分で大きなせきをしてばつと取ったんだそうです。それで、取れたたんが随分大きかったとねと。その後そのままだと倒れたと。それで、結局それが支えていた家の女性が背中をさすっていましたが、倒れてくるとは思いませんので一緒に倒れるぐらいでした。それで、家中が大騒ぎになって、皆集まって、結局それが最期です。

**住職** このお寺でも先生が亡くなったときに、やはりお知らせを受けてそれは一大事だと。私は中学生でしたが、川島先生が亡くなられたという緊張感がお寺の中に走ったという記憶があります。

私の母(日恵尼上人)がお供を連れて、ご自宅へ車で向かったと現職員が記憶して、そこからお身内としては葬儀とかいろいろ大変なことになると思いますが、その母が後年によく言っていたのは、先程の萩原会長

大映の永田雅一社長は池上本門寺さんに非常に近い関係があったと伺いました。

**川島** はい、そうです。

**住職** その池上本門寺の関係で、身延山の一番お偉い現下にお願ひしようかという話が出てきたときに、合同葬儀(自民党・専修大学・千葉工業大学)でしたが、当然自民党の仕切りというのは幹事長である。当時の幹事長・田中角栄先生は、「そういうことではなくて、やはりこういふことはお墓のある菩提寺を立てなさいいけない」という裁定をされて、結局妙壽寺でお葬儀をさせていただいた。私の母は尼住職でしたから、やはりそこそこは、川島先生ほどのお方なので、東京に宗務総長と申しまして我々の教団行政トップの高名なお上人(宗務総長福島日陽台下、後の大本山光長寺御貫首現下)がおられ、そのお上人に葬儀式場である武蔵野大講堂を拝借していただいて、自分は副導師ということで一歩引下がり、それでお勤めをさせていただきました。ですから、それで、私の母は亡くなるまで田中先生のファンでしたね。(笑) そういう逸話が残っています。

**川島** 田中先生も非常に庶民的な方で、ご自身の動かれ方も、心が体から出ているような先生でしたね。

**住職** そういふ筋を通されるような方でして。その後、結局このお寺に四十九日のご埋葬ということになったときに、川島先生は副総裁で、内閣総理大臣が佐藤栄作先生。それで墓石に佐藤先生にご揮毫いただいた。そのときは、中学生の私は脇におりまして、これから埋葬ということで、本堂で奥様に先生のご遺骨をお渡しするときに、隣に佐藤ご夫妻がおられて、住職が一言ご挨拶したときはちよつとつむいておられたが、ご遺骨が来たんだという感じの上を向かれたんですよ。そのときにすくきよつとしたという思い出があります。そうしたら、佐藤先生のあだ名が「政界の団十郎」と聞き、団十郎、あの目がぎよつとされるなと思いました。

**川島** 佐藤先生と寛子奥様には、長いこといろいろお付き合いを頂いて、今ご住職がおつしやられたように、葬儀から何かご配慮いただきました。

**住職** その後、先代の私の母屋が尼住職をして、もちろん川島家には春秋、そして

夏のお盆とお伺いしていました。母が倒れた後に代務住職(沼津市大本山光長寺元執事長・南之坊浦辺泰恭上人)が行かれた。私は20代から大森山王のお宅に年3回はお経に上がらせていただきました。本堂に私にとつては人生で大変重要な体験でした。駅から歩いていくのが今でも全部よみがえります。それから、川島夫人からは川島はあだだつた、こうだつたというお話も伺ったりしました。その話を聞いて今度私が、私のお弟子のお上人がおられまして、その方が私どもの先々代・祖父と小僧時代に川島先生のところへ上がって、縁側とかで師匠が川島先生とすこいお話をされているときに、そこでお茶を出してもらって、要するに待っているわけですね、小僧ですから、お付きだから。

そのときにちよつと聞かされた話がお坊さんの政治家の方がいましたよ。吉田派の方がいて、寝返つちやつた。川島 はい、いらつしやいました。

**住職** 寝返つちやつて、次の選挙のときに川島先生が、「ああ、もう彼はきつと駄目だろうね」とか言っていたのを聞いて、すぐリアルな話だと伺いました。だから、私のような政治に直接関係なくても、そういう歴史に自分がタッチしたような感じを受けて、すこい方がこのお寺のお檀家でおいでになるんだな。それも考えてみればいろいろ縁があった。川島先生が本堂にお若いときに「結婚されたお相手は福井幸さんという方で、坊ちゃんもおできになったのですが、最初に奥様が亡くなり、大切にしていた坊ちゃんが11歳で亡くなった。多分そのときに先々代が奥様の供養にお経を上げさせていただいたりしたので、縁が深くなった。

**川島** それで、幸さんは、私ども川島が今お借りしている墓地の後ろのところいらつしやいます。

**住職** 今も、そのご縁の方がもちろんおられます。

**川島** 存じ上げています。私も小さい頃よくかわいがっていただきました。大森にもしよつちよつとお見えになって…。

先生が亡くなられて、ハワイの現地の方々から先生へのお悔やみ、奥様へのお見舞いが相次ぎ届きました。翌年2月に10日間の日程で先生の遺影を持って、奥様と私、赤城宗徳夫人、篠田弘作夫人でホノルルに行き、現地の皆様とお別れして参りました。

## 身近過ぎた川島先生への想い

**住職** 川島一雄様ご自身、先生に対してのお気持ちはいかがでしたか。先生の存在があまりにも身近過ぎていましたから、何とも言えないでしょうけれども。

**川島** 追想集「川島正次郎」があります。あれを発刊するに当たって、私が書いたかどうかどうと家の者に話したことがあるんですよ。そうしたら、やめなさいと。なぜ

かと言うと、あまりに近過ぎていろいろ薄れちゃうというのか、どうしてもすぐそばにいましたからね。

こんなことがありました。私が小学生の頃、自転車に乗るのが流行っていて、友達とサイクリングを楽しみにしていました。川島家では自転車を買ってもらえませんでした。家に来る植木屋さんの自転車を借りて、内緒で乗っていました。どうしても欲しく、何度も奥様にお願ひしましたが、受け入れられませんでした。やつとこのことで承諾されましたが条件付きで、「我が家には二人の母の名前からつけた、マサカネ」という登録馬が日本中央競馬会にあり、レースで1着を取ったら自転車を買ってもらい」といわれました。残念ながらその夢は叶わず、諦めてしまいました。後年の夢は叶わず、諦めてしまいました。後年に聞かされた話では、「川島家には正孝さんという方がいて、14歳で自転車事故による破傷風で亡くなった」とのことです。そのため、私が自転車に乗ることを躊躇されたようです。

**住職** 政治家・川島正次郎先生の貴重なお話を伺って、やはり先生は巨星なのだ、非常に思いました。今、私どもの宗派でも、明治以降のこと、近現代のことが意外に分からなくなってきたという話が出ております。研究者の方たちは戦国・江戸時代をいろいろ調べますが、それ以降のことが結構分らないですね。

**川島** ちよつと近過ぎてしまうからでしょうね。

**住職** そうです。近過ぎちゃうのと、まだちよつと生々しい面もあったりするからだと思いますが、これから歴史の再評価の中で、私は川島先生という政治家を再評価されるべきだと今回改めて思いました。過去に学んではかりいって駄目だというご意見もありませんけれども、やはり過去を学ばずして未来はないわけですから、日本の歩方ということを考えて、これから日本の歩むべき道というのを考えて、これから川島先生のご生涯というのは、私もこれからもう少し勉強していきたいなと思います。

今日はありがとうございました。(了)



勲一等旭日大綬章に輝く川島正次郎と奥様の写真(昭和40年4月)



いなせな江戸「火消し」の法被姿(昭和43年1月)



川島家が当山に奇贈した「纏(まと)」レプリカ(猿江別院展示)



ジャイアント馬場とアントニオ猪木両選手にチャンピオンベルトを贈呈(昭和44年9月)



日本武道館で行われた合同葬儀には関係者多数が出席して故人の遺徳を偲んだ(昭和45年11月13日)



佐藤首相も焼香



一周忌前に納骨の供養が行われ、佐藤首相はじめ多くの方々が出席(下段の衣帯姿は、先代三吉妙恵(智覚院日恵)尼上人。昭和46年10月9日 妙壽寺)

## 川島正次郎 かわしま・しょうじろう

明治23年7月10日、東京日本橋で生まれる。京大正3年専修大学経済科卒業。内務省、東京日日新聞記者、後藤新平東京市長秘書を経て、昭和3年の総選挙で政友会から初当選。以来、千葉1区から連続14期。戦時中は大本営政治情報部長。昭和30年鳩山内閣の自治庁・行政管理局長官、36年北海道開発庁・行政管理局長官、37年池田内閣の五輪担当大臣。この間34年自民党幹事長に就任し、川島派を率いて河野一郎・大野伴睦と共に党の指導者として統率。39年から副総裁を務める。池田内閣誕生、佐藤総裁四選工作の際の手腕は「政界の寝技師」と評された。昭和40年4月、勲一等旭日大綬章を授章。昭和45年11月9日逝去。享年81才。廣徳院殿法敷政功日正大居士

川島 ありがとうございました。(了)